

最近の管内経済概況

～ 低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる ～

最近の動きをみると、

個人消費は、一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動きとなっている。

公共工事は、堅調となっている。

住宅建設は、大幅に減少している。

民間設備投資は、大幅に減少している。

観光は、低調となっている。

生産活動は、持ち直しの動きがみられる。

雇用動向は、厳しい状況となっている。

企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加している。

全体として、管内経済は低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる。

なお、先行きについては、国内外の経済情勢に引き続き留意する必要がある。

平成21年12月10日

照会先：経済産業省北海道経済産業局
総務企画部調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：hokkaido-chosa@meti.go.jp

U R L：http://www.hkd.meti.go.jp

管内経済概況判断の推移

(21年12月現在)

発表月	21年7月	8月	9月	10月	11月	12月
総括判断	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
全国	景気は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	景気は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	景気は、失業率が過去最高水準になるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	
個人消費	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き
公共工事	一服	一服	堅調	堅調	堅調	堅調
住宅建設	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少
民間設備投資	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少
観光	低調	低調	低調	低調	低調	低調
生産活動	一部に持ち直しの動き	一部に持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き
雇用動向	さらに厳しく	さらに厳しく	さらに厳しく	さらに厳しく	厳しい状況	厳しい状況
企業倒産	件数、負債総額とも増加	件数、負債総額とも減少	件数は減少、負債総額は増加	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少	件数は減少、負債総額は増加

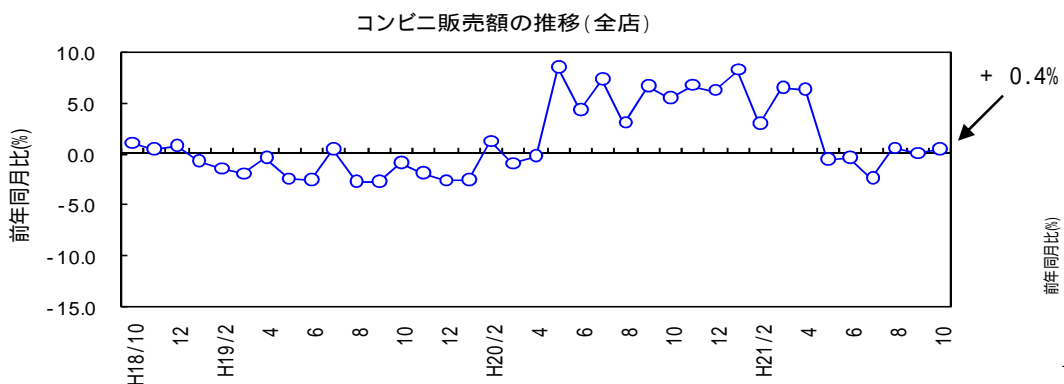
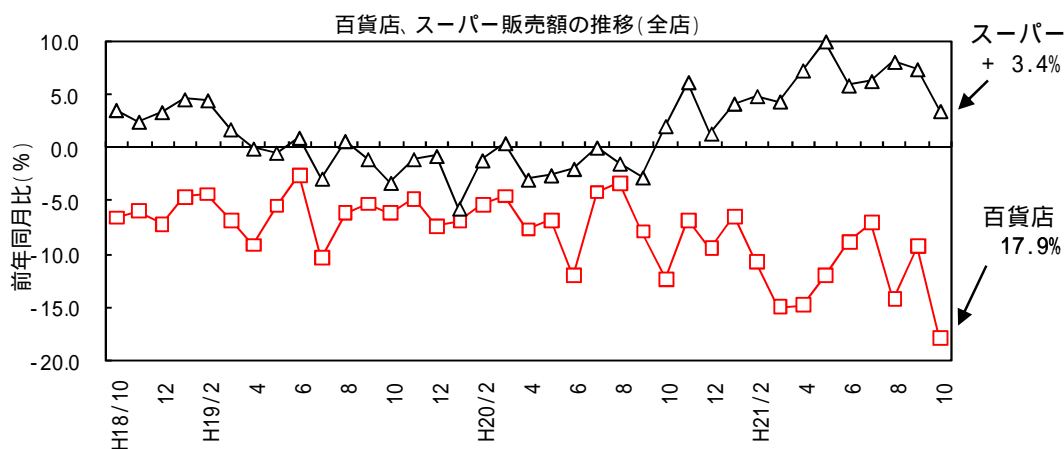
全国は、内閣府「月例経済報告」の基調判断。

個人消費 ~ 一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き ~

個人消費

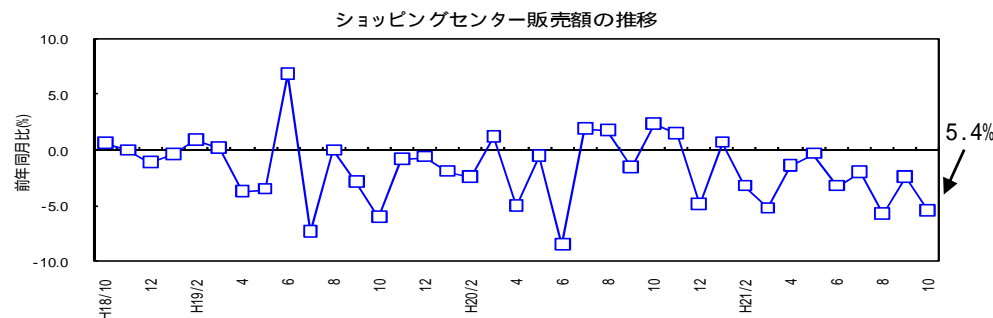
百貨店、スーパー、コンビニ販売額（10月）

- ・百貨店は、一部店舗の閉店の影響に加え、季節のわりに暖かい日が続き秋冬物の動きが鈍かったこともあり、前年同月比17.9%となった。
- ・スーパーは、単価下落が続いているものの、飲食料品が堅調に推移したことから、同+3.4%となった。
- ・コンビニは、同+0.4%となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・10月は気温の高い日が続いたため、婦人、紳士ともに冬物衣料の動きが鈍かった。また、身の回り品は9月のセールで反動でマイナス幅が大きくなった。(百貨店)
- ・海外ブランドなどの高額商品は相変わらず苦戦が続いており、衣料品、身の回り品とも大きく落ち込んでいる。(百貨店)
- ・10月は野菜や豚肉の価格が下落し単価が下がり、販売点数の増加でカバーしようとしたが、思うように伸びなかった。(スーパー)
- ・10月は雨の日が多かったことや、台風の影響などで連休の行楽需要は落ち込んだものの、固定客の売上が堅調で、ほぼ前年並みを維持できた。(その他小売)
- ・11月も消費傾向に大きな変化はないが、雪も降り寒くなってきたので防寒衣料などの出足は順調。ただし、価格が安いものにシフトしてきているので、売上はあまり伸びていない。(百貨店)
- ・11月前半は例年より気温が高く冬物の売れ行きが鈍かったが、中旬の冷え込み以降は、手袋や防寒肌着の売れ行きが好調。(スーパー)
- ・ポジョレーヌーパーは予約段階で前年比2割増と好調。昨年より輸入量を増やし、価格も安くしている。(その他小売)

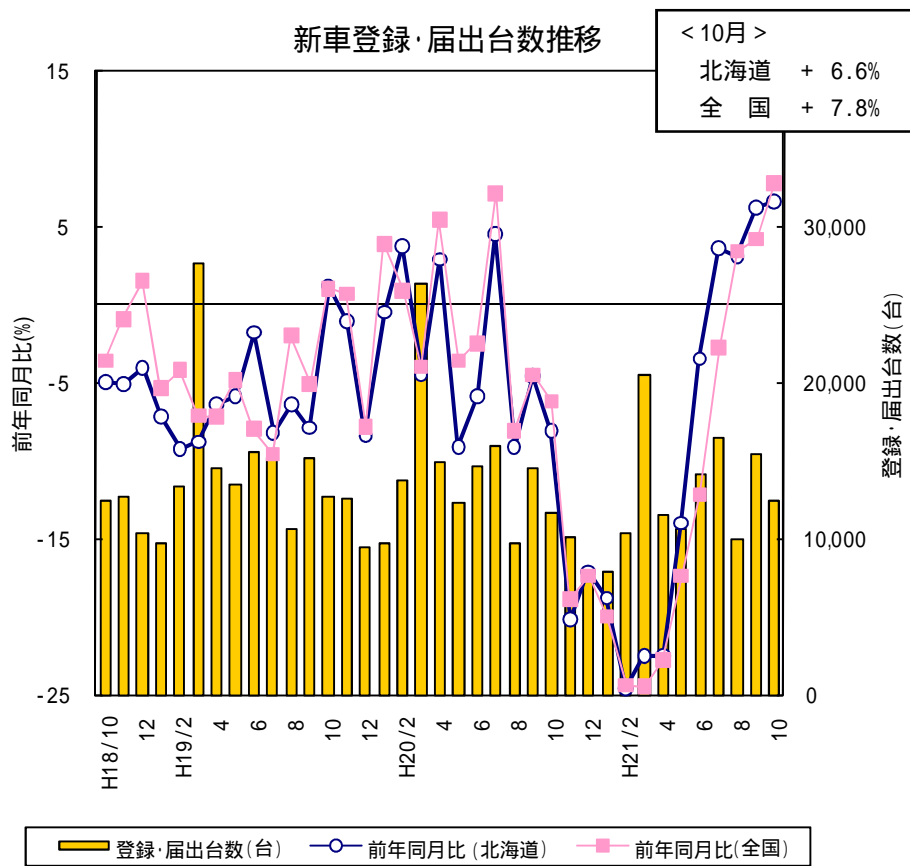


(資料:北海道経済産業局)

(資料:(社)日本ショッピングセンター協会)

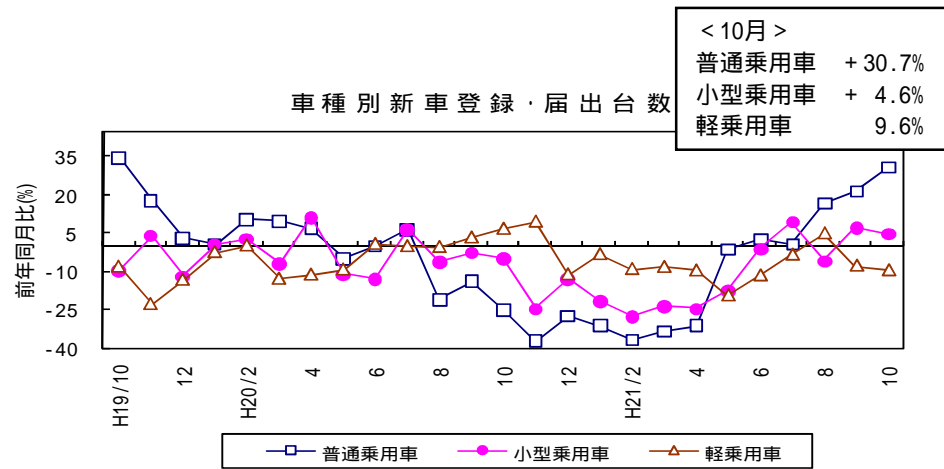
新車登録・届出台数、家電販売額（10月）

- ・軽乗用車が前年を下回ったものの、エコカー減税・補助金の効果等から、普通乗用車、小型乗用車が前年を上回り、全体では前年同月比+6.6%となった。
- ・家電販売は、エコポイント制度の効果等から、薄型テレビ、冷蔵庫などが引き続き好調。



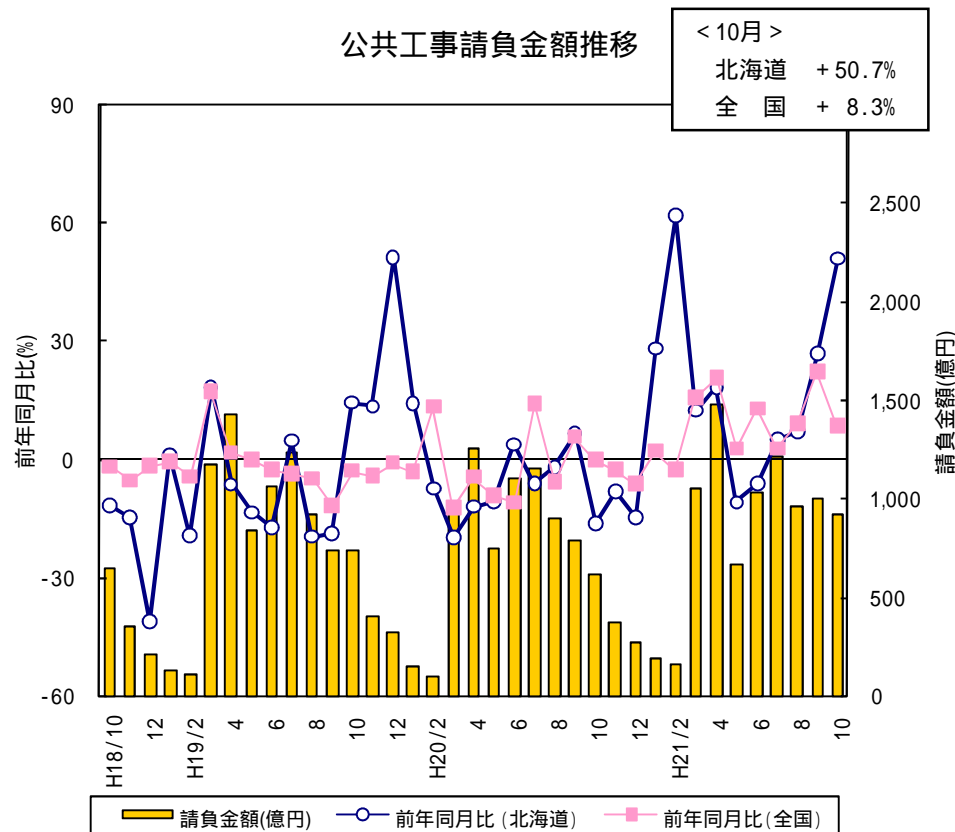
【企業ヒアリング内容】

- ・現在売れている車は、全てエコカー補助金・減税のおかげで、営業努力によるものではない。これに慣れてしまえば後の反動が怖い。(ディーラー)
- ・北海道では4WDの人気が高いが、FF車に比べると減税額が少なく価格も高い。このため、今年は例年よりFF車の方がよく売れている。(ディーラー)
- ・電気自動車は今のところ行政や法人向けだけだが、関心を持っているユーザーもあり、政府のCO2削減方針も追い風となり、今後、かなり売れると踏んでいる。(ディーラー)
- ・液晶とプラズマで売上の3割強を占めており、販売は引き続き好調。テレビの価格下落はもうそろそろ限界にきており、これ以上は安くならないだろう。(家電販売)
- ・パソコンは新しいOSが発売されたが、まだ大きな動きはない。冬のボーナス商戦に期待している。(家電販売)
- ・デジタルカメラは軽量、低価格の一眼レフが女性の間でブームになっており、全体を牽引している。(家電販売)



(資料:(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会)

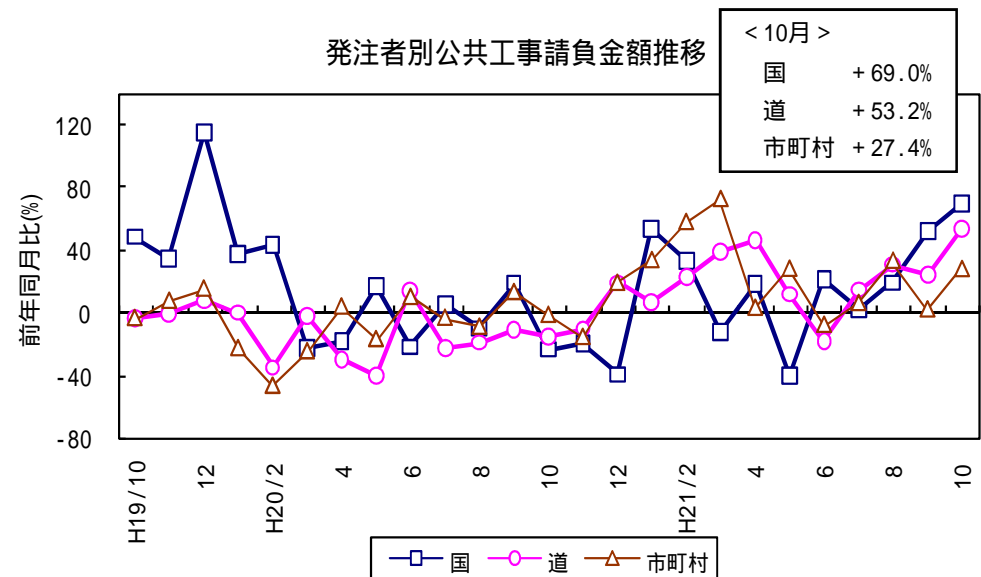
・10月の公共工事請負金額は、国、道、市町村ともに前年を上回り、全体では前年同月比+50.7%となった。



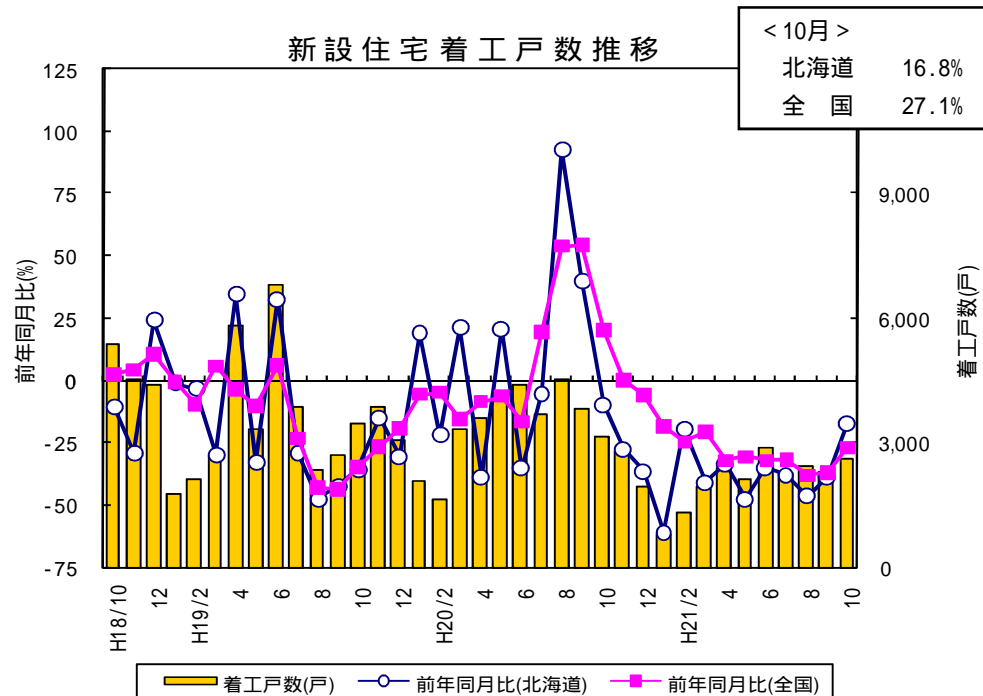
(資料:北海道建設業信用保証(株))

【企業ヒアリング内容】

- ・管内の公共工事は昨年に比べ二桁ほど増えている。しかし、工事の予定価格が以前に比べ低くなっているため、仕事が取れても厳しいのではないかと。(金融機関)
- ・道東、道央等で河川工事の蛇籠が出ており、道南では落石防止の金網が出ています。予算が付けば幾らでも直すところはある。(金属製品)
- ・補正の受注で今は忙しいが、現場作業員数は限られており、受注できる工事量も自ずと決まってくる。今期は作業員が不足し、工事の進捗が遅れる可能性もある。(建設)
- ・10月はトンネル等の大型物件の入札が4~5本あったが、当社は一つも取れなく厳しい状況。(建設)
- ・国関係の発注は5月の連休明け以降小さな工事が増えはじめ、下期にトンネル等の大型工事が出てきた。今期は補正予算で一気に潤い、技術者不足でこれ以上入札にも参加できない状況。(建設)
- ・来年度以降は新規案件の発注は期待はできない。高度成長期にかけた橋梁が寿命を迎えているため、生き残る道としてこれらの補修や架け替え工事にシフトしていく。(金属製品)

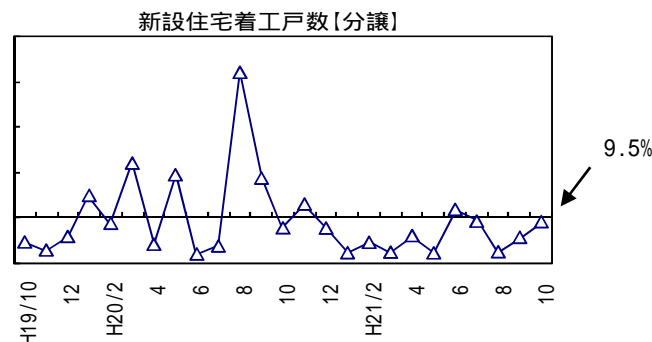
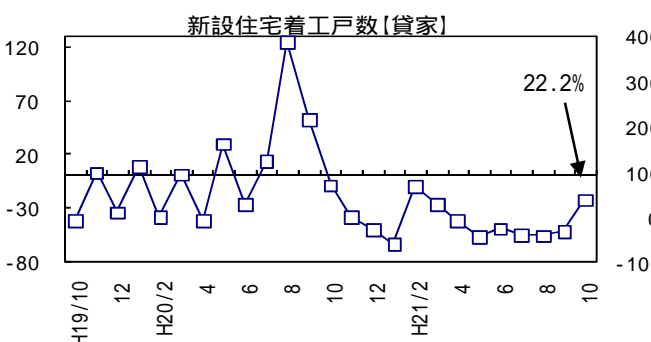
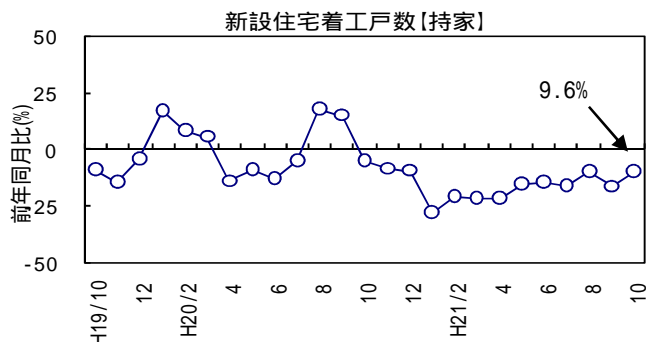


・10月の新設住宅の着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を下回り、全体で前年同月比 16.8%となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・マンション新築に関しては、見積りの話すらない。仮に話が来ても、マンションはコストが合わず、相手先が倒産するリスクもあるので受ける気はない。(建設)
- ・通常の間取りではポスト団塊ジュニア世代にとっては値段が高くなってしまったため、価格も大きさも3割程度下げた商品を発売し、概ね好評。(住宅)
- ・買い得感のある土地・建物は売れているので、住宅の潜在的需要はある。しかし、収入や雇用環境が悪いため、なかなか今急いで家を建てようという気にはならないのではないか。(住宅)
- ・賃貸物件は安いところへ移る人はいるが、それ以外は動きがない。引越に多少お金が掛かっても長い目で見れば得ということ。(マンション)
- ・この時期としては、少しは動きが良くなっている。ただ、新築はもう伸びしろがなく、今後は人材、資金をリフォーム部門に移していくことになるだろう。(住宅)
- ・良くなる兆しが見えず、今はじっと我慢するしかない。新規着工するにしても来春以降で、まだ土地の手当もしていない。(マンション)
- ・春先に向けて在庫調整が加速すれば、マンション用地の手当に動きが出てくるだろう。しかしユーザーは先が見えない不安感からまだ様子見の状況で、来年1年くらいは厳しいだろう。(マンション)



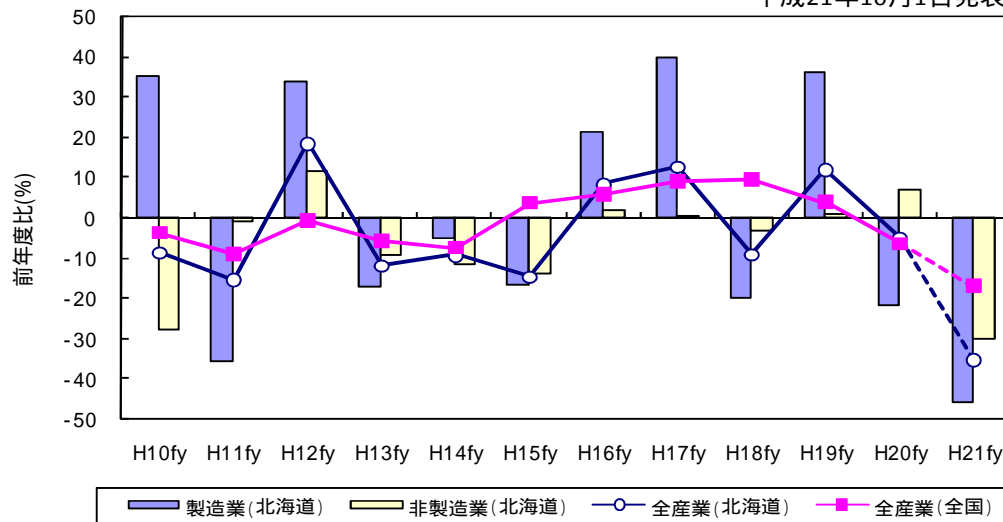
(資料:国土交通省)

民間設備投資 ~大幅に減少~

・ 21年度の設備投資計画は、製造業、非製造業ともに前年度を大きく下回っている。

日銀短観の設備投資動向(製造業、非製造業別)

平成21年10月1日発表



(資料: 日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査 (設備投資)

平成21年9月17日発表

前年(同期)比 (%)	20年度	21年度(計画)	
		上期	下期
全産業	14.4	17.5	15.2
製造業	2.7	33.1	36.5
非製造業	24.0	10.6	6.1

(資料: 北海道財務局)

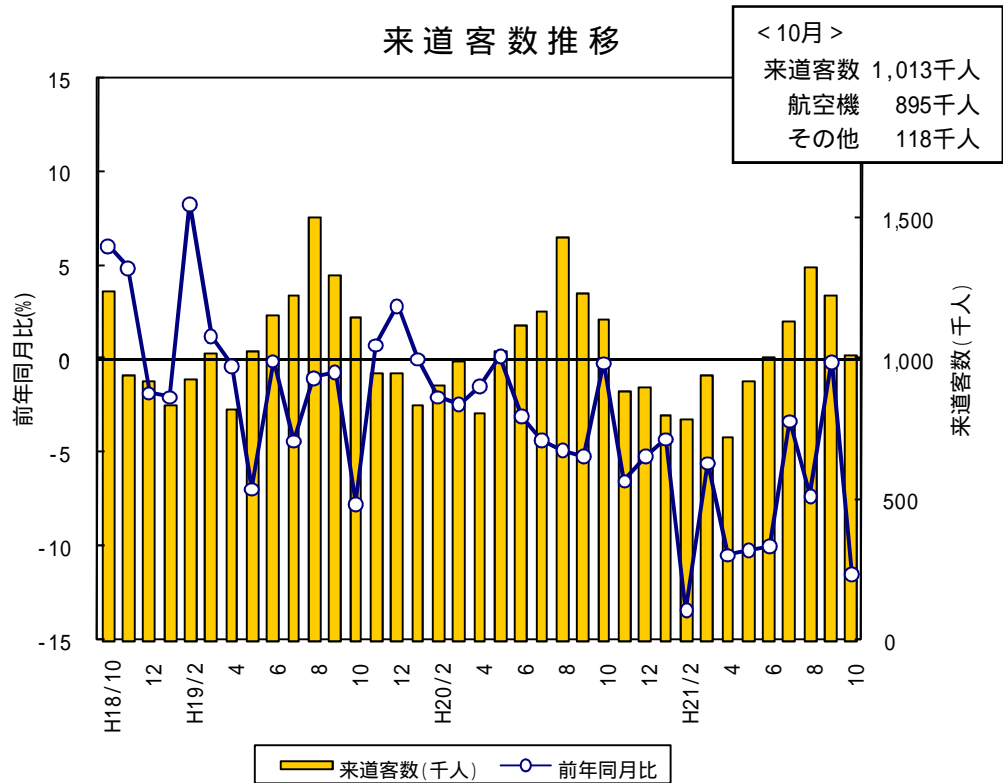
注) 土地購入額を含む。ソフトウェア投資額を除く。

	<20年度>	<21年度計画>
北海道	5.1%	35.7%
製造業	21.7%	45.9%
非製造業	+6.9%	30.3%
全国	6.4%	17.3%

【企業ヒアリング内容】

- ・ 国内市場が年々縮小する中で、これからは大きな設備投資はできない。今後は需要拡大が見込まれるアジアに進出していく計画で、当工場のラインも中国に一部移設した。(金属製品)
- ・ 来年度の設備投資は、今のところ本年度並みを予定しているが、年明け以降の受注動向が不透明なため、まだ流動的な状況。(輸送機械)
- ・ 厳しい環境の中で設備投資にためらいがあったが、長い目で見ると必要と考え、機械設備を購入する予定。(木材・木製品)
- ・ 昨年9月以降、投資案件がパタッと途絶え、今もそのまま動きがない。(金融機関)
- ・ 来年度は官公需向けの受注減少が確実なため、投資額は極力抑えざるを得ない。老朽化している工場の更新も、いつ着工できるかわからない。(窯業・土石)
- ・ 今は大きな投資をしても効果が出にくい状況。売場の配置換えやテナント入れ替えなど既存店舗の細かな活性化策を実施していく。(小売)
- ・ 管内製造業の受注は上向いてきているが、設備投資は基盤整備の維持補修程度で、目ぼしい案件はない。(関係団体)

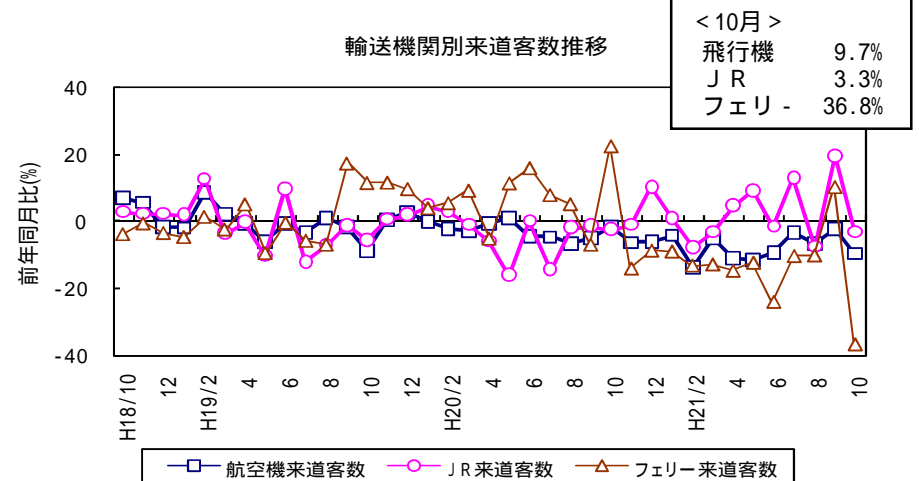
・10月の来道客数は、前年同月比 11.5%となった。



(資料: (社)北海道観光振興機構)

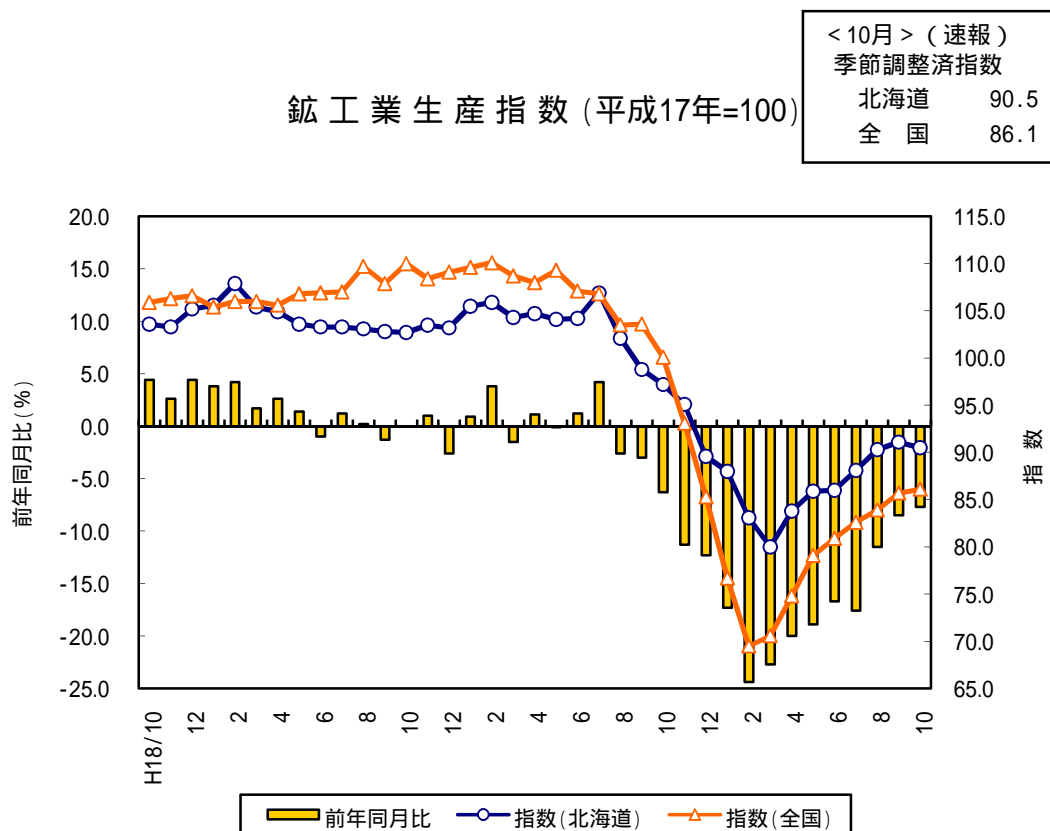
【企業ヒアリング内容】

- ・10月に入って業況の悪さが鮮明になってきており、前年同月比でも大きく落ち込んでいる。9月のシルバーウィークに集中した反動もあるだろう。(旅行代理店)
- ・インバウンドは少しずつ戻り始めていたところだが、円高が続くと海外客の急減、国内客の海外へのシフトが懸念される。(ホテル)
- ・市内のホテルは、客室料金を下げて小さなパイの奪い合いをしており、前年を超えているところはほとんどない。(ホテル)
- ・まだボリュームは小さいが、ネット予約は前年に比べ2割増。(ホテル)
- ・地方路線の廃止や減便は地方の観光産業にとって大きなダメージで、観光客は減る一方。(関係団体)
- ・11月も、悪かった10月から変化はなく、良くない状況が続いている。連休や週末には予約が入るのだが、平日が本当に悪い。(ホテル)
- ・年末年始も例年に比べて動きが弱く、前年の8~9割程度の予約状況。(旅行代理店)



生産活動 ～ 持ち直しの動き ～

- ・ 10月の鉱工業生産は、前月比 0.7%と7か月振りの低下、前年同月比 7.7%と15か月連続の低下となった。
- ・ 輸送機械工業、化学工業、石油・石炭製品工業等が低下、電気機械工業、鉄鋼業等が上昇している。



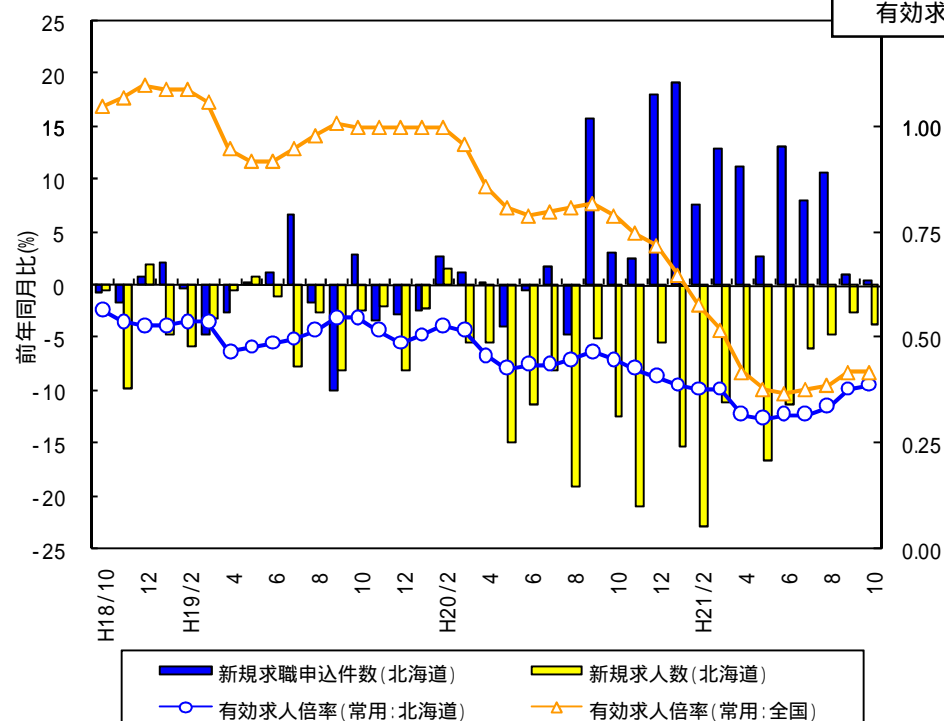
【企業ヒアリング内容】

- ・ 中国等アジア向けは堅調に伸びているものの、市場の中心である北米での販売が鈍くなっている。(輸送機械)
- ・ 回復傾向が続いている自動車向け鋼材に加え、トラック・建機向けも少し動きが出てきた。(鉄鋼)
- ・ 一部モデルの売れ行きが好調で、外注や残業によるフル生産体制で対応している。需要シーズンを迎え、当面はこの水準を維持できる見込み。(電気機械)
- ・ 灯油は価格が安いうちにタンクに入れようという動きがあり、出荷が伸びているが、軽油は依然として需要が低迷。(石油・石炭)
- ・ 建築不振により例年になく道内棒鋼需要は冷え込みが深刻。輸出環境も明るいとはいえず、需要見合いの生産を継続。(鉄鋼)
- ・ 印刷用紙は相変わらず需要が回復しない。輸出も最近の円高で價格的に厳しく、今後の海外市況と為替次第。(紙・パルプ)
- ・ 携帯電話・民生関係は韓国、中国からの受注を中心に比較的堅調。国内はゲーム機器向けが、やや良い動き。年内については微増で推移する見通し。(電気機械)
- ・ ジュースは嗜好品のため消費者の節約志向の影響を大きく受けている。業界各社は新商品の発売を手控える傾向にあり、市場自体が縮小していく懸念が強い。(食料品)
- ・ 約3年分の受注残があるため、足元では好調。しかし、昨年秋の金融危機以降、受注が冷え込んだままで、先行きは不透明。(輸送機械)
- ・ 定期修理のため殺虫剤の生産ラインを1週間停止。(化学)

(資料: 経済産業省、北海道経済産業局)

- ・ 10月の有効求人倍率は0.39倍と、前年同月差で0.06ポイント低下した。
- ・ 新規求人数は前年同月比 3.7%と前年を下回った。新規求職件数は同+0.3%と前年を上回った。
- ・ 事業主都合離職者は同 3.5%と前年を下回った。

新規求職・新規求人・有効求人倍率(常用)



【企業ヒアリング内容】

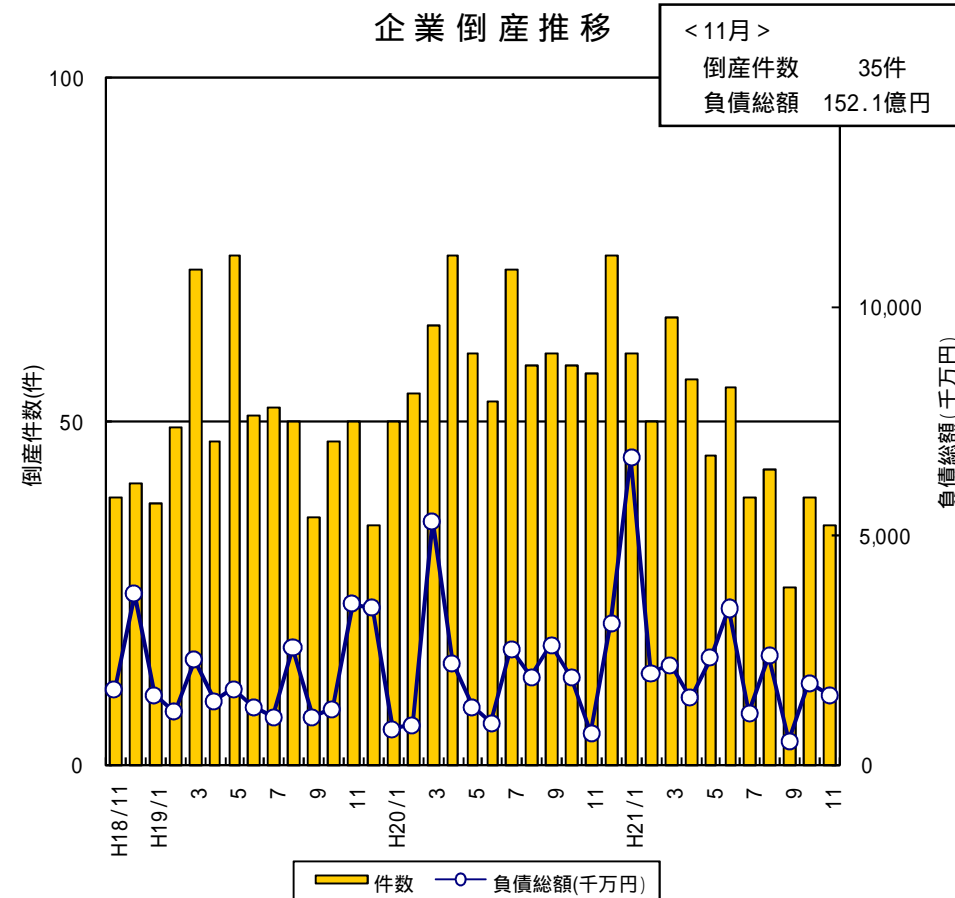
- ・ 現在はフル生産が続いているが、忙しいのは今期限りの可能性が高く、人手不足は臨時雇用で対応。(窯業・土石)
- ・ 道内の棒鋼需要の低迷により減産を継続しており、工場の要員が過剰となっている。生産部門の採用については、当面は新規・中途とも予定なし。(鉄鋼)
- ・ 数週間前に企業説明会を行ったが、もう11月であるにもかかわらず数名の募集に大卒・短大卒・高卒合わせて200名程度の学生が集まり、就職氷河期を肌で感じた。(ホテル)
- ・ 秋の販売が悪かったため、生産能力・人員の過剰感が強い。派遣社員を減らす予定。(食料品)
- ・ 来期の新規採用計画はない。社内全体を横断的にマネジメントすることで適正な人員配置を行っていく。(小売)
- ・ 現状の人員体制を維持し、生産変動に対しては派遣や契約など期間を限定した雇用で対応。(輸送機械)
- ・ 市内で来年度に社員を新規採用する企業はほとんどない。高卒等の新規採用は道内他地域でも極めて厳しいと聞いている。(金融機関)
- ・ 新型インフルエンザの流行で消毒用アルコールの受注が増え、10月から工場を2交替で稼働させており、派遣を9名採用したほか営業職も2名中途採用。(医薬品)

(資料:厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ~ 件数は減少、負債総額は増加 ~

企業倒産

- ・ 11月の倒産件数は、35件で前年同月比 38.6%と前年を下回った。
- ・ 負債総額は、152.1億円で同+122.1%と前年を上回った。



(資料:(株)東京商工リサ - チ北海道支社)

【企業ヒアリング内容】

- ・今は資金調達に問題はないが、最近、取引銀行が来年以降のことを気にするようになってきた。公共工事が大きく減少すると借り入れも厳しくなるだろう。(窯業・土石)
- ・水産業界全体に対する貸出は益々厳しくなっていると聞いている。マグロ、カニなど高級水産物が売れないなど消費動向の変化もあって、金融機関は警戒を強めているようだ。(食料品)
- ・金融に関する相談は相変わらず多いが、各種政策の効果もあって、春先に比べると、やや落ち着いている。(関係団体)
- ・それほど多くはないが、昨年からの支払いをもう少し待ってほしいという企業が増えている。(旅行代理店)
- ・民間金融機関から借り入れできるためか、このところ、資金繰りが苦しいとの話はあまり聞かない。(関係団体)
- ・跡継ぎのいないような小規模の商店や建設業者は、続けようと無理をして借金をつくる前に廃業するケースが増えている。(金融機関)

